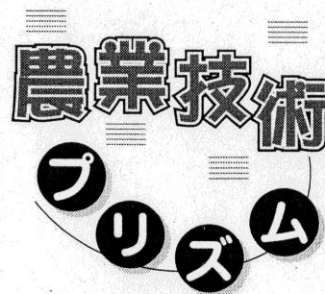


施肥量と収量、品質および玄米たんぱく値

施肥	窒素施肥量 (kg/10 a)	収量 (kg/10 a)	良質粒比 (%)	玄米たんぱく値 (%)	検査等級 (1-10)
元肥	4	550	81.2	6.4	3.2
	6	605	74.7	6.3	3.4
	7~8	651	72.7	6.6	3.2
穂肥 1	0	538	78.1	6.3	3.7
	2	640	72.7	6.5	3.2
穂肥 2	0	558	80.1	6.0	4.0
	2	610	84.0	6.3	3.0
	4	598	87.0	6.7	3.5

注) 試験年次: 元肥2011、12、14 穂肥1回目11、12、14 穂肥2回目11、12
 良質粒比: 粒厚1.8mm以上の玄米に対する2.1mm以上の割合
 検査等級: 1(1等上)~9(3等下)と10(規格外)の10段階評価



早期水稻「つや姫」

収量と品質向上へ 施肥体系を検討

長崎県では、2011年に高温登熟性に優れた良食味の極早生品種「つや姫」を奨励品種に採用し、現在は県内の県北・島しょ地域を中心に栽培されています。「つや姫」は元肥を多く

低下の要因となる玄米たんぱく値が増えました。このことから、収量、品質と玄米たんぱく値を総合的にみて、元肥は10ヶ当たり窒素6ヶが優れていると考えられました。

1回目穂肥(幼穂長1、2ミ、出穂前25日ごろ)は、窒素2ヶが0ヶに比べて増収し、検査等級は優れていました。

2回目穂肥(幼穂長100ミ、出穂前10日ごろ)は、多くなるほど良質粒比が高くなりましたが、玄米たんぱく値も高くなりました。このことから、窒素2ヶが収量、玄米たんぱく値と品質の面で優れていました。

以上から「つや姫」の収量と品質を向上させる施肥は、元肥窒素6ヶ・穂肥1回目2ヶ・穂肥2回目2ヶ体系と考えられます。

施用すると、倒伏しやすく品質低下が懸念されるため、収量と品質を向上させる施肥技術を検討しました。

元肥は窒素施用量が多くなるほど増収しますが、品質の目安となる良質粒比が低下し、食味

栽培上の留意点として、水稻は地域・土壌で生育量が異なるので、推進地域の水稲生育状況と圃場(ほじょう)の地力を考慮し施肥することが重要です。(県農林技術開発センター作物研究室・大脇淳一)